

第12回全日本高校模擬国連大会 書類課題講評

グローバル・クラスルーム日本委員会 2018年度選考統括 武部 文香
研究主任 石本 達也

今年度も全日本高校模擬国連大会に大変多くの参加申し込みをいただきました。心より御礼申し上げます。本年度の採点対象チームは215チームでございました。本年度も昨年度と同様に、10人の選考員のもとで分担し、選考課題に対する採点を行いました。以下、課題全体に関する出題テーマを説明したのち、選考課題の問題別に講評を述べたいと思います。

全体概観

今回の選考課題では、2030年の達成に向けて世界が取り組んでいる「持続可能な開発目標(SDGs)」において、問題を解決し目標を達成するために、問題の背景に立ち返って解決策を考えるということをテーマに掲げました。政策は理想状態と現状の乖離を埋める手段ですが、いかに「現状」を理解できるかが鍵となり、その背景にまで踏み込んで理解することではじめて効果的な政策となるでしょう。

その中でも今回取り上げた水問題は、ますますそのグローバルな重要性が大きくなりつつあり、2018年からは「水の国際行動の10年(Water Action Decade)」がスタートしていることから、さまざまな面で注目されています。さらに、水問題は気候変動や他のSDGsのゴールに掲げられるさまざまな問題ともリンクしており、みなさんが模擬国連で取り組む国際問題がそれ単体のものではなく、さまざまな問題が絡み合っているということを体感できたのではないのでしょうか。

設問別講評

問1

課題図書第1章「地球の水の何が問題か」と終章「未来可能性の構築に向けて」を読んで、地球の水について最も重要な問題点は何か、その解決には何が必要なのか、筆者の意見をまとめなさい。(500字以内)

課題図書の要約問題であり、本文からいかに問題の要求に沿う形でまとめられるかが鍵となります。そのためこの問題では自分の意見を混ぜるのではなく、客観的に筆者の主張を整理することが求められます。

評価のポイントは以下の通りです。

- ✧ 問題文で記載されている、筆者の考える「水問題」と「水問題」における最も重要な問題点、またその解決に必要なことについて触れているか。
- ✧ 終章の持続可能性について触れられているか。

筆者の考える水問題や水問題の最も重要な点に触れられている解答は多く見られたのですが、解決に必要なことについて適切に解答できている答案が少なかったです。また、終章の持続可能性に触れず第1章のみで書かれている解答が多くありました。

問2

課題図書第4章では気候変動と水問題の関係性について述べられており、特に水問題の解決において気候変動政策の「緩和策」と「適応策」がどのように適用されるかについて取り上げられています。現在気候変動政策は、「緩和策」と「適応策」と大きく2つに分類され、国連気候変動枠組み条約締約国会議などでは両者をいかにして適用するのかについて議論されてきました。

では、第3回国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP3）以降のCOPで気候変動（水問題に限定しない）に対する「緩和策」と「適応策」についてどのような議論がなされてきたでしょうか。必要に応じて課題図書以外の資料も調べ、具体的な政策も踏まえながらまとめなさい。（1000字以内）

課題図書から離れ自分たちでリサーチを行い、気候変動に関する議論が現在までにどのように行われたかを問う問題で、情報収集能力が必要になります。問題に関する議論はその時々によって変化していくことがあります。その変化にはそれぞれきっかけがあり、議論過程を時系列順に整理し考えるというプロセスは、模擬国連で皆さんが各国の代表を担当し国際問題や担当国の状況をリサーチする際にも行われるものです。

評価のポイントは以下の通りです。

- ✧ 緩和策、適応策についてのこれまでのCOPでの議論の内容が書かれているか。特に、
 - 緩和策としての排出削減における先進国と途上国の差異化に関する議論がまとめられているか。
 - 適応策がいつ、どのように注目され議論されるようになったかがまとめられているか。
 - COP21のパリ協定でまとまった緩和策、適応策に言及しているか。

緩和策と適応策のうちどちらか片方のみしか触れられていない解答や、定義のみで議論の流れが書かれていないものが多数見受けられました。また先進国と途上国の差異化について触れられているものはごく僅かでした。

パリ協定については、近年の重要な合意であることから言及できている解答が多く、そのうち多くは緩和策と適応策の両方に触れられていました。

問3

課題図書では、全体を通じて持続可能性と水問題の関係について述べられています。2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標」(SDGs)では、ゴール6で水と衛生のアクセスの確保が掲げられています。また水問題は第1章でも述べられていたように、ジェンダーや経済など多様な分野と関連しています。

そこで、SDGsのゴール3, 5, 8, 10, 12の中からゴールを一つ選び、そのゴールと水問題がどのように関係しているか説明し、そのゴールの達成も確保しながら水問題を解決するための具体的な政策を考え、論じなさい。ただし、どのゴールを選択したのか解答の冒頭で明示すること。また、提示する政策によって解決されるのは水問題のどのような側面であるか(地域を限定してもよい)、政策の実行主体などを具体的に想定して論じなさい。(1200字以内)

問1・2では筆者の見解やこれまでの議論過程を整理する問題でしたが、本問では皆さん自身がどう政策を考えるか、という意見論述の問題を出題しました。模擬国連では各国の意見は「政策」という形に落とし込んで議論することになりますが、その政策にどのように妥当性を持たせ、説得力のある論述を構築できるかを狙いとしました。

評価のポイントは以下の通りです。

- ☆ ゴールが示されており、ゴールと水問題との関わりが妥当なものであるか。
- ☆ 自分なりに考えた政策がどのような水問題を解決できるのか、論理的に説明できているか。

まず一つ目のポイントは、設問の指示に従っているかということです。ゴールを一つ選びそのゴールと水問題はどのように関わっているか、また自分の考えた政策は水問題の解決とゴール達成に至っているかという条件に沿って論じられているかということを基準としました。ほとんどの答えは条件に沿って論述できていました。

次に、主張に至る根拠などが論理的に示されていて説得力があるか、また自分なりの視点で

主張が構成されているかどうかをポイントとしました。単に既存の政策を紹介するのではなく、それらを踏まえ発展させたり、自分で独自に考えたりできているかという点では、現在 NGO などにより行われている実際の政策を提示しつつそれを発展させてユニークな政策を打ち出した答案などが散見された一方で、既存の政策を調べることに終始しそれを紹介するに留まっている答案も見受けられました。

問4 (英語課題)

国際会議では、自国の利益はもちろんのこと、隣国や友好的な関係にある国、世界全体のことにも考慮に入れて交渉することがあります。みなさんの生活のなかでも、自分のやりたいことを自由にできるわけではなく、家族や友人との関係を考慮にいれなければならないということがあるでしょう。では、友人や家族などの意見と自分の意見が対立した場合、どのようにすべきでしょうか。具体的に自分の体験を挙げながら、意見をまとめなさい。ただし、「模擬国連」での体験以外を具体例として挙げなさい。(250 words 以内)

英語のエッセイ課題では、模擬国連でも重要な「意見の対立と協調」のあり方について問いましたが、もちろん模擬国連に留まらず今後皆さんが世界で活躍する人になるにあたって、さまざまな価値観や考えを持つ他者と接することになりますから、どのように対立をまとめ関係を構築していくかを考えておくことは重要です。

評価のポイントは以下の通りです。

- ✧ 文章全体における論の展開が明確でわかりやすいか。
- ✧ 本大会を見据えた際に、参加するにふさわしい英語力を備えているか。
- ✧ 設問の指定に沿っているか。

英語力については、ほとんどの答案が十分高いレベルを持ち合わせていることが伺えました。

具体例を挙げると意外に短い 250 words という制限字数のなかで意見をどのように論理的に構成するかが求められましたが、具体例の記述に終始したり、要素を多く挙げそれぞれの説明が希薄になったりしている答案などが多く見受けられました。設問の指定に関しては、模擬国連での体験を具体例に挙げている答案や、250 words に対して字数が著しく少ない答案が散見されました。制限字数の 8 割にあたる 200 words は書くことが望ましいでしょう。

以上をもって、選考課題に関する講評とさせていただきます。**なお、選考に関する個別の問い合わせは一切お答えできませんので、ご了承ください。**